

リスク志向・回避行動におけるアンケート調査

Questionary survey in risk intention / the evasion action

1K06B215

指導教員 主査 山崎勝男先生

宮本 嵩士

副査 原田宗彦先生

§1 序論

世の中には、自らすすんでリスクを求める人、またはできるだけリスクを回避しようとする人が存在する。リスクを好んで志向するのか、それとも回避するのかは各個人によって異なっている。そこで本調査ではこのようなリスク志向・リスク回避行動（以下、リスク行動）の個人差が何によって規定されているのか、またどのようなプロセスを経てリスク行動が決定されているのかを明らかにし、不適切なリスク行動を適切なリスク行動に変えるための指針を見出すことを目的とする。

§2 調査方法

4つのリスク状況において、先行研究で用いられているパーソナリティ要因、認知要因を用いて、これらの要因とリスク行動との関連性について質問紙法を用いて検討した。質問の内容となる4つのリスク状況は、個性・性格的な質問、大学受験という実際に行ったリスク、スポーツに対してのリスク、ギャンブルという金銭的リスクとした。

§3 結果

質問ごとに関連付けてどのような結果が出たかを調査した。検討の結果、個人の能動性の数値が高いほど、大学受験時のリスクやロッククライミング、ギャンブルにも関心が高いことが示された。特にギャンブルと能動性には顕著な関連が示された。しかし、パーソナリティとロッククライミング、大学受験とロッククライミング、ロッククライミングとパチンコにおいては関連性が見られなかった。結果より、ロック

クライミングつまりスポーツと関連性があるものはなかったことが示された。また、安心感について大学受験、ロッククライミング、パチンコについて比べるとパチンコだけが圧倒的に安全度が低いと認識されていることが調査の結果でわかった。

§4 考察

質問間の関連についてそれぞれ考察したところ先行研究の結果と対応した結果が多く、それぞれの関連性の有意性が示された。ギャンブルの項目においては男女での差も顕著に出ており、結果から男性の方が、不確実志向性の高い人が多いことが分かった。また一方で今回のアンケートでは不十分であった点や問題点も考えられた。特定の質問に対してのみ回答率が悪かったことや、場合分けをした場合にサンプルの数に大きく偏りが見られたことから今後は、質問項目をより洗練化する必要がある。

§5 まとめ

本調査より、個人の能動性と、大学受験、ロッククライミング、パチンコのそれぞれは関連性が見られた。特に個人の能動性とパチンコの関連性は大きく、自分からリスクを志向しやすい人は、パチンコやギャンブルといったところに自ら赴く傾向が示唆された。また男女の差については予想ほど確認できなかったがパチンコに対して楽しさを感じるか、またよく行くかどうかといったところについては大きな男女差が生じていた。また一方で、ロッククライミングに関する質問については対象を早稲田大学スポーツ科学部の学生としたことから、もともとス

ポーツに興味関心が高かったため結果が出にく
かったと考えられる．